

一般国道442号（大木大川バイパス(4車線化)） （改築系道路事業）

1. 事業概要

1) 路線の概要

一般国道442号は、大分県大分市を起点とし熊本県小国町や福岡県筑後市を經由して、福岡県大川市に至る総延長約174kmの広域的な幹線道路である。筑後地域を東西に横断するバイパスが平成25年度に暫定2車線で開通し、引き続き4車線化を進め、八女筑後バイパスは平成27年度に完成、筑後バイパスは令和元年度から事業中であり、本事業区間は残された4車線化未着手区間となっている。

2) 事業の必要性

- ①大木大川バイパスは現況交通量が13,942台/日と多く、蛭池交差点付近では特にピーク時には交通渋滞が発生しており、円滑な交通に支障を来している。
- ②本路線は、災害発生直後の救援・救護活動や人員・物資輸送のための緊急輸送道路に指定されており、沿線には防災拠点として指定されている「道の駅おおき」等が位置しているにもかかわらず、暫定2車線であるため、緊急輸送道路としての機能強化が求められる。
- ③大川市・大木町は、基幹産業であるインテリア産業や農水産業と観光業が連携した産業の育成、また、周辺地域と連携した広域観光を推進しており、周辺地域との更なる連携強化が必要である。

3) 事業に期待される効果

- ①(円滑な交通の確保)
4車線化整備により交通容量不足が解消されることで、ピーク時に発生する交通渋滞が緩和される。
- ②(緊急輸送道路としての機能強化)
緊急輸送道路2次ネットワークとして、九州縦貫自動車道、有明海沿岸道路、防災拠点「道の駅おおき」へのアクセス機能が強化される。また、4車線化することで、災害時にも迅速な交通確保が可能となる。
- ③(地域活性化の支援)
筑後地域の回遊性の創出、物流の効率化や交流人口の増加等が図られ、物流・人流の両面で地域の振興支援に寄与する。また、令和2年度末に有明海沿岸道路の大川東ICから大野島ICまでの区間が開通予定であり、佐賀方面との連携も強化される。

2. 現道の状況

有効幅員：W=6.5m(19.0m)
現況交通量(車線数)：13,942台/日(2車線)(24時間大型車混入率11.0%)【R1.11実測】

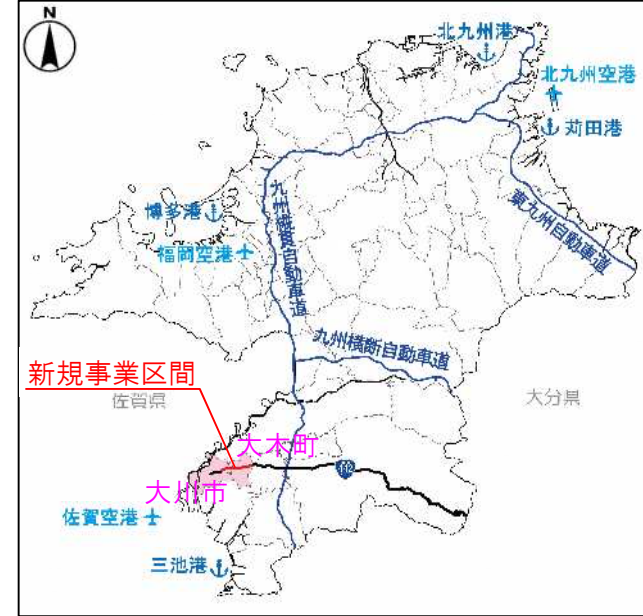
3. 計画内容

事業箇所：三潞郡大木町大字福土～大川市大字大橋
延長・幅員：L=6.7km、W=13.0(25.0)m
道路区分・設計速度：第3種2級 地方部 設計速度60km/h
全体事業費：C=4,000百万円
事業着手年度：令和3年度
事業完成予定年度：令和12年度
計画交通量(車線数)：16,500台/日(4車線)(R12推計)
費用便益比(B/C)：1.22

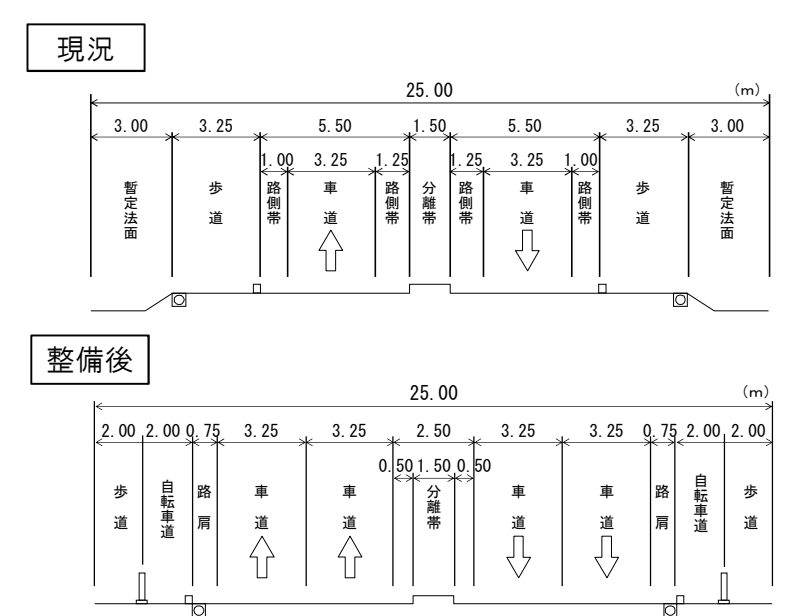
4. その他特記事項

陳情書・要望書：一般国道442号(大分～大川)道路整備促進期成会活動(S57設立)
令和元年10月10日 大木町長から要望
令和3年1月21日 要望書 大木町長、大川市長から提出

【位置図】



【横断面図】



【平面図】

